

公共下水道台帳システム整備業務に係る個人情報流出の可能性について

公社が受託している公共下水道台帳システム整備業務において、業務委託先の関連会社のネットワークが外部から不正アクセスを受け、一部の個人情報が外部から閲覧可能な状態になっていたことが判明しました。なお、情報が流出した痕跡は確認されていません。

1. 概要

- ・ 下水道の管路施設や排水設備の情報を一元管理するシステム（公共下水道台帳システム）の更新および保守管理業務の業務委託先の関連会社である、東京ガスエンジニアリングソリューションズ（以下、「TGES」という。）のネットワークが外部から不正アクセスを受け、一部の個人情報が外部から閲覧可能な状態になっていました。

2. 経緯

- ・ 7月17日、TGESの報告によると、TGESのネットワークが外部からの不正アクセスを受け、公共下水道台帳システムに登録するための一部の個人情報が閲覧可能な状態になり、流出の可能性があることが、7月9日に判明したとのことです。

3. 流出した可能性のある個人情報

- ・ 公共下水道台帳システムに登録されている約8万8千件の個人情報（氏名、住所、排水設備管理データ）。
- ・ TGESからの報告によると、7月17日時点で情報が流出した痕跡は確認されていません。
- ・ また、不正アクセス確認後、外部からネットワークへの接続を遮断し、不正なアクセスができないよう対策を講じたとのことです。

4. 今後の対応

- ・ 流出した可能性のある情報の確認については、TGES等と連携して速やかに進めます。
- ・ TGES等から詳細な報告を受けるとともに、原因究明や再発防止に向けた必要な対策を求めていきます。

5. その他

- ・ 7月17日、TGESが本件を含む情報流出の可能性に関するプレスリリースを行っております。